

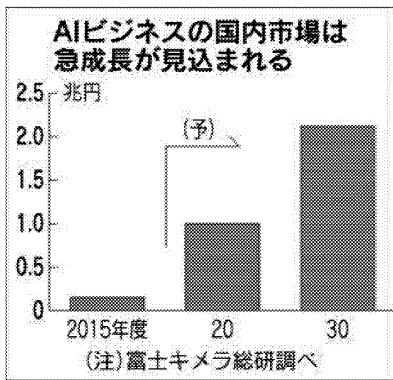
人工知能（AI）のソフト開発などを手掛けるUEI（東京・文京）は9月、長岡市内に研究拠点を開設する。環境機器の大原鉄工所（長岡市）は市と連携し、AIを活用した廃棄物分別機の販路を開拓する。長岡市はAI関連産業の育成に力を入れており、徐々にではあるが、成果が出てきた。

UEI、農漁業向け研究

長岡でAIビジネス始動

UEIは、農業や漁業の効率化などに関するAIの研究開発を担う子会社「AIUEO」を設立する。資本金は1千万円。UEIの清水社長は長岡市出身で、新会社の社長も兼務する。

同社は、大量のデータなどをとくにコンピューター自らが学習する「ディープラーニング（深層学習）」と呼ばれる技術を得意とし、AI関連のソフトや端末などを開発している。新会社では積雪や海洋資源などのデータを集め、AIを活用して



大原鉄工所 廃棄物の分別装置

「食料生産の自動化」を研 制整備に力を入れてい 究する。当初、従業員は 数人程度だが、将来は地 元での採用も検討する。 った廃棄物の分別装置を

長岡市に新会社を設立 する理由について、清水 社長は「自然が豊かで、 農産物や漁業に関するデー タ収集に適している」と 話す。長岡技術科学大や 販路開拓で、市や長岡技 術大とも連携する。

必要人材を採用しやす いのも理由の1つだ。地 方に研究開発拠点の候補 地を探していたところ、 磯田達伸市長が訪れ「A I先進地区を目指し、体 2017年度から、中 小企業向け「ものづくり 未来支援補助金」と「産 学連携研究開発補助 金」を拡充、IoT環境 整備のための設備投資や 研究開発を補助の対象に 加えた。産官学金が連携 し、IoTやAIの導入 企業を支援する「IoT 推進ラボ」の地方版を設 立、7日に経済産業省か

AIをテーマに講演す るUEIの清水社長 (4日、長岡市)



から選定された。 人材育成では、4日に プログラミング教室も開 いている。 富士キメラ総研による 30年度に2兆1200億 円に拡大すると予測して いる。市はいち早く環境 を整備し、AIを巡る地 方間の競争で優位に立ち たい考えた。